

調査報告

韓国大学における会計教育の実態調査および分析(1)

洪 慈乙¹⁾・尻無濱芳崇²⁾・張 堯赫³⁾

目 次

- I 大学における会計教育の実態について調査するに至るまでの問題意識
- II 実態調査の対象と方法
- III 韓国の大学における会計教育の実態調査
 - 1. 国立大学
 - 2. 一般国立大学における会計学教育の位置づけ別の分類および特徴
 - 3. 教育課程（カリキュラム）からみる会計学授業
 - 4. シラバスを通じてみる会計学授業－会計関連科目の授業内容
- IV カリキュラムおよびシラバスを通じてみる韓国大学の会計教育
 - 〔付録1〕 教育課程（カリキュラム）における会計関連科目および位置づけ
 - 〔付録2〕 会計基本科目のシラバスの例

I 大学における会計教育の実態について調査するに至るまでの問題意識

会計は企業のような経済主体の経済活動をあらわす「ビジネスの言語」である。したがって、会計を行わずビジネスをすることはできない。ビジネス社会における会計の役割は経済の発展とともに拡大し、今日のような情報化社会では、会計情報は経済活動に関する意思決定を行うのなくてはならない。

企業の会計情報は「複式簿記の機構に支えられた一連のプロセス」およびこのプロセスを規制するルールにもとづいている。したがって、企業会計は、一連のプロセスをルール化する「ルールの作り手」、ルール化された一連のプロセスにしたがって情報を作成する「情報の作り手」、そして特定経済主体の会計情報を利用する「情報の利用手」によって行われている。このような企業会計は、今日、複雑な金融商品（金融商品取引）の開発、会計における時間的価値概念の導入など、経済事象の認識・測定が複雑になるにつれて、会計ルール、会計情報の作

1) 山形大学人文学部教授

2) 山形大学人文学部講師

3) 一橋大学大学院 商学研究科 博士後期課程

り方、および利用の仕方が複雑かつ難しくなりつつある。そのため、企業会計を遂行するためには相当な専門知識が要求され、そのための専門教育を行う必要がある。このように会計学が実用的学問であることはいうまでもない。

しかしながら、会計学は他の学問と同様に、基本的原理および論理にもとづいて行われなければならない。会計ルールの作り手も会計情報の作成者も会計の基本原則を知らずに、金融商品取引に関する会計ルールを作ることも、時間的価値概念を導入した会計ルールを作ることもできない。すなわち、会計の理論にもとづいた会計の基本原則および論理を理解せず、経済活動における意思決定に有用な情報を作ることはできない。さらに、会計情報の作り手は会計の基本的知識をもとに会計ルールを熟知し、変化する経済環境にともなう会計ルールの変化にも対応しなければならない。会計情報の利用者は入手できる会計情報を的確に分析し、意思決定をする能力を養わなければならない。つまり、一言で「会計」・「会計学」・「企業会計」といっても、そこには理論的面と実践的面があって、両方が備わって行われることで、会計に求められる社会的役割（機能）を十分果たすことができる。

とは言っても、一般社会で求められる会計学は、社会にすぐ使える実用科目としての会計知識の習得に偏重している傾向がある。会計の基本原則を深く理解し、変化する経済環境に対応しうる会計学の教育とは、認識がかけ離れていると思われるのである。

大学教育として会計学の教育はどこに重点をおいて、どのような体系でどのような内容の授業を行うのが望ましいのであろうか。多岐にわたる広範囲の会計が社会に役に立つようにするためには、どのような会計教育を行うのがいいのであろうか。これは、会計学を大学で教える教員が抱える共通の悩みであらう。このような問題を解決するための一つの足掛かりとして、国内の他大学や他国の大学で行われている会計教育を調査し、比較・検討をしてみることにした。

Ⅱ 実態調査の対象と方法

現在、国際会計基準の導入が世界各国で進展している。国際会計基準導入済みの国における会計教育を調査し、日本の会計教育と比較することは、いまだ国際会計基準を導入していない日本における会計教育のあるべき姿を考えるうえで、有用な知見をもたらすと考えられる。

したがって、日本の大学教育と比較するため、まず、2011年から国際会計基準を全面的に導入した韓国の大学における会計教育について調べることにした。韓国は日本と地理的に非常に近く、社会・経済が直面している状況にも共通点が多いため、比較対象として最適であると考えられる。調査の方法として、①インターネットによる検索と、②韓国の大学を訪問し、会計学担当教員へのインタビューを行い、会計教育についての考え方を直接聞く、という2つの方

法を採用した。

まず、インターネットからの調査では、山形大学と同様の国立大学における会計学教育について調べるため、韓国の国立大学を検索し、大学の組織構成と会計学の授業が行われている学部を調べた。そして、各大学の教育課程（カリキュラム）から、どのような会計学科目の授業が開設されているのかを調べた。その結果として、会計学科目として基本的に共通して開設されている科目を抽出することができた。そして、それらの科目のシラバスを調べることにした。シラバスの調査対象は国立大学に限らず、ソウルにある国立・私立大学のうち、ソウル大学、延世大学、韓国外国語大学、慶熙大学、弘益大学、高麗大学、成均館大学、梨花女子大学の8校で開講されているものにした。そのうち、ソウル大学、延世大学、成均館大学におけるシラバスを本報告書の末尾に掲載している。

つぎに、実地調査として、2014年9月22日から26日までの5日間、韓国のソウルおよび大邱にある大学を訪問し、大学の見学、事前にインタビューを申し込んだ会計学教員へのインタビュー、および授業見学をし、紹介されたテキストを購入⁴⁾した。韓国では9月から2学期の授業が始まっていたので、授業見学をすることができた。インタビューおよび授業見学は下記表の日程で行ったが、本報告書では、前半の韓国の国立大学におけるカリキュラム上の会計学科目およびシラバスの調査内容について紹介することにして、2014年9月に行ったインタビュー内容の詳細および韓国大学における会計教育の実態分析については、次回の報告とする。

〔表〕 実地調査の日程および内訳

日付	大学名	インタビュー対象者	授業見学
2014/09/22	ソウル大学	チュ・ジョンハク（会計監査） ジョン・ウンオ（財務会計）	会計原理（ジョン・ウンオ）*
2014/09/23	成均館大学	チュ・グァン（財務会計） ソン・インマン（財務会計）	
2014/09/24	中央大学	ホン・チョルギユ（管理会計）	
	成均館大学	ベク・テヨン（管理会計）	管理会計：MBA（ベク・テヨン）
2014/09/25	嶺南大学	ジョン・ギウイ（財務会計）	会計原理（ジョン・ギウイ）
2014/09/26	嶺南大学	キム・ジョンオック（財務会計）	

（敬称は省略）

*は、英語で行う授業

4）インタビューした先生の著書を頂いたものもある。

Ⅲ 韓国の大学における会計教育の実態調査

1. 国立大学

韓国には約189校の一般大学（4年制）があり、そのなかに一般大学としての国立大学は下記の30校があった⁵⁾（順番は、ハンゲルのアルファベット順）。

①江陵原州大学校、②慶南科学技術大学校、③慶北大学校、④慶尚大学校、⑤公州大学校、⑥群山大学校、⑦クムオ工科大学校、⑧木浦大学校、⑨木浦海洋大学校、⑩釜慶大学校、⑪釜山大学校、⑫ソウル科学技術大学校、⑬ソウル大学校、⑭順天大学校、⑮安東大学校、⑯蔚山科学技術大学校、⑰仁川大学校、⑱全南大学校、⑲全北大学校、⑳濟州大学校、㉑昌原大学校、㉒忠南大学校、㉓忠北大学校、㉔韓京大学校、㉕韓国教員大学校、㉖韓国交通大学校、㉗韓国伝統文化大学校、㉘韓国体育大学校、㉙韓国海洋大学校、㉚ハンパツ大学校

上記大学の規模は、ソウル大学校、釜山大学校、慶北大学校、全南大学校、全北大学校、忠南大学校、忠北大学校等のように、各「道」（日本の「県」に当たる）に1校ずつある大規模の総合大学から小さい規模の地方国立大学までである。また、⑫ソウル科学技術大学校、⑬ソウル大学校、㉘韓国体育大学校を除いては地方に位置している国立大学である。

上記の一般大学校以外に、国立の大学教育機関としては、教育大学校が10校、特殊大学（光州科学技術院、大邱慶北科学技術院、韓国科学技術院、韓国芸術総合学校）、大学院大学（国際癌大学院大学、韓国学大学院）、専門大学（韓国農水産大学、韓国福祉大学）、および韓国放送通信大学があるが、この報告書では一般国立大学校のみを調査対象にする。

2. 一般国立大学における会計学教育の位置づけ別の分類と特徴

(1) 分類

上述の一般国立大学校のうち、会計関連科目の教育がどこに属しているかによって、大学の形態を分類してみると、下記のとおりである。

- 1) 人文社会学系に属している大学校：①江陵原州大学校、⑤公州大学校、⑥群山大学校、⑭順天大学校、⑮安東大学校
- 2) 経済系と経営系が分離され、経済系は「社会学」系の大学に所属し、経営系は「経営」・「商経」大学として独立している大学校：④慶尚大学校、⑩釜慶大学校、⑬ソウル大学校、㉓忠北大学校
- 3) 経済系および経営系が一緒に「経済・経営」もしくは「経商」のような名称の大学に属している大学校：②慶南科学技術大学校、③慶北大学校、⑧木浦大学校、⑱全南大学校、

5) 韓国では、universityは「大学校」、そのなかにcollegeの性格を持っているのを「大学」、大学のなかに「学部」または「学科」をおいている。したがって、日本における「・・・大学」は韓国では「・・・大学校」という名称である。

⑲全北大学校、⑳済州大学校、㉑昌原大学校、㉒忠南大学校、㉓ハンパツ大学校

4) 経済系大学と経営系大学がそれぞれ設けられている大学校：⑪釜山大学校

5) 経済系科目の開設はなく、経営系科目のみ開設されている大学校：⑦クムオ工科大学校、
⑫ソウル科学技術大学校、⑬蔚山科学技術大学校、⑭仁川大学校、⑮韓京大学校、⑯韓
国交通大学校（社会科学大学）

6) 経営・会計関連科目が開設されていない大学校：⑨木浦海洋大学校、㉔韓国教員大学校、
㉕韓国伝統文化大学校、㉖韓国体育大学校、㉗韓国海洋大学校

(2) 特 徴

上記(1)からわかるように、一般大学に分類されているが特殊分野に特化されている大学校、すなわち、⑨木浦海洋大学校、㉔韓国教員大学校、㉕韓国伝統文化大学校、㉖韓国体育大学校、㉗韓国海洋大学校の5校を除いては、「工業技術」系の大学校⁶⁾でも、経済系科目の開設はなくとも、経営・会計関連科目が開設されていることがわかる。また、経済系科目は「社会」系大学に属し、経営大学は独立して開設されている大学校が多い。このような点から、「実用性」の高い経営関連の科目に対する需要が多いことが推察できる。

以下では、会計関連科目が開設されている大学（もしくは学部・学科）の教育課程（カリキュラム）では、どのような会計関連科目がもうけられているのかについてみることにする。

3. 教育課程（カリキュラム）からみる会計学授業

各大学が開示している2014年度のカリキュラムを参考に、それぞれの大学で開設されている会計関連科目をまとめたのが、本文の末尾に掲げている〔付録1〕である。これらを一覧した結果、会計関連科目が開設されている各大学のカリキュラムは、大きく2つに分けることができた。1つは「会計学科」・「会計情報学科」のように会計分野が開設されているところのカリキュラム、もう一つは、「経営大学」もしくは「経営学部」、「経営学科」のカリキュラムのなかで会計科目が開設されている場合である。

(1) 「会計」専門分野が開設されている場合

前述の大学校のうち、「会計」分野が開設されている大学は13校であり、一般国立大学の半分近い数である。このように、「会計」分野が別途に開設されている大学における会計関連科目の名称は、大学によって多少異なっているが、細分化されており、関連科目の数も多い。それらの科目を分類してみると、下記のとおりである。

- a 会計科目としては、主に、会計原理、原価会計⁷⁾もしくは管理会計、中級会計(1)もしくは(中級)財務会計を必修科目としている大学が多い。そして、専攻選択科目として、中級

6) 工業技術系の大学としては、⑦クムオ工科大学校、⑫ソウル科学技術大学校、⑬蔚山科学技術大学校、および㉘韓国交通大学校、がある。

7) 日本では「原価計算」という。

会計(2)を始め、高級会計、会計情報システム、会計学研究方法論、税務会計、経営分析・財務諸表分析、ERP⁸⁾会計、非営利会計（政府および非営利会計）、会計理論、会計監査、国際会計、企業会計基準書解説、企業会計基準論、電算会計、連結財務諸表論・連結会計、電算原価分析、会計帳簿組織論、会計史、特殊会計、会計英語、等の科目が見られる。

b 会計関連法律科目としては、商法・会社法、企業法などの履修が求められている。

c どの大学の会計教育においても税法関連科目の開設が多く、開設科目としては、税法、税法概論、地方税、財産税、法人税、付加価値税、などがある。この点から、地方の国立大学の場合は、公認会計士よりは、税理士の資格試験を意識した会計教育が行われているのではないと思われる。

d その他の関連科目として、財務管理、経営分析、投資論、先物とオプション、企業財務論、国際財務論などの経営科目が見られる。

(2) 経営関連のカリキュラムのなかに会計科目が開設されている場合

大学によって科目の名称が異なる場合はあるが、会計原理、財務会計もしくは中級会計、原価会計、管理会計、税務会計、ERP実務、電算会計、会計監査、高級会計、政府会計、キャップストーン・デザイン会計、ERPとOperation Management、税務会計(2)、財務諸表分析等の科目がみられる。

(3) 両方に共通する点

上記(1)および(2)を通してみると、「会計」専門分野が開設されている場合でも、経営関連のカリキュラムのなかで会計教育が行われている場合でも、会計に関する基本的な科目、会計原理、中級（財務）会計、原価会計等の複数の会計科目が専攻科目に含まれていることが分かる。

以上の点から、韓国の大学では経営分野における会計関連科目が占める割合が高く、会計教育を重視している傾向があると推察される。

会計の中心科目として、会計原理、中級会計・高級会計もしくは財務会計、原価会計および管理会計のような共通の科目では、どのような内容の授業が行なわれているのかを調べるため、本報告書のⅡで言及したように、ソウル大学校、延世大学校、韓国外国語大学校、弘益大学校、慶熙大学校、高麗大学校、成均館大学校、梨花女子大学校の、ソウルにある有数の大学

8) ERP (Enterprise Resource Planning) とは、企業の持つ様々な資源（人材、資金、設備、資材、情報など）を統合的に管理・配分し、業務の効率化や経営全体の最適化を目指す手法。また、そのために導入・利用される統合型（業務横断型）業務ソフトウェアパッケージ（ERPパッケージ）のことをいう。調達・購買、製造・生産、物流・在庫管理、販売、人事・給与、財務・会計など、企業を構成する様々な部門・業務で扱う資源を統一的・一元的に管理することで、部門ごとの部分最適化による非効率を排除したり、調達と生産、生産と販売など互いに関連する各業務を円滑に連携・連結したりする。ERPパッケージはERPを実現するために導入される情報システムとして、前述の様々な業務に対応したシステムが一つにパッケージされた大規模のソフトウェアである。これを全社的に導入することにより、部門間の即時の情報共有や密な連携が可能となる。

における会計学関連科目のシラバスを調査した。

4. シラバスを通じてみる会計学授業——会計関連科目の授業内容

シラバスの様式は大学によって異なるが、主要項目は同等のものであった。

ソウルにある大学のシラバスを取り上げたのは、それが韓国大学における一般的な内容のシラバスであると考えたからである。2014年9月に韓国大学の会計教育者にインタビューをするため、会計学教員の構成を調べたところ、会計学担当者はソウル大学校9人、延世大学校9人、高麗大学校14人、などであった。その構成員の最終学歴はすべてがアメリカの大学学位所持者であった。そして、地方大学の会計学教員の構成メンバーも大人数のほうが多かった。また、構成員の最終学歴は外国もしくはソウル大学校、延世大学校、高麗大学校などのソウルにある名門国立・私立大学の出身者が多かった。そのため、韓国の大学における会計教育は、アメリカ式の教育が一般化されているとみられる。また、このような点から、ソウルにある大学のシラバスの内容が一般的なものと考えられるのである。しかし、紙面上シラバスを全部紹介することはできないため、前述したように、ソウル大学校、延世大学校、成均館大学校、のシラバスを本報告書の末尾に〔付録2〕として掲載し⁹⁾、以下では、それらを通じて、会計学科目の授業内容を把握することにした。

2013年度または2014年度における「会計原理」、「中級（財務）会計（Intermediate Accounting）」、「高級会計（Advanced Accounting）」、「原価会計」、および「管理会計」のシラバスの例を通じて、韓国大学における会計学授業の特徴をみると下記のとおりである。

- ① 一学期1科目3単位（150分）の授業¹⁰⁾を、担当者によって、100分・50分ずつ週2回、または75分・75分週2回、もしくは150分連続週1回、の時間で16週分行う。
- ② 会計学授業の体系は基礎科目として「会計原理」（3単位）を置いて、そのうえに財務会計と管理会計の科目を、財務会計は「中級会計1」（3単位）と「中級会計2」（3単位）¹¹⁾、「高級会計」（3単位）、管理会計は「原価（計算）会計」（3単位）と「管理会計」（3単位）、の体系で行っている。ゼミナール形式の授業は行われていない。
- ③ 授業は、テキストを中心に1週間大体1章ずつの進み具合である。
- ④ シラバスに掲げられているテキスト、例えば、成均館大学校の「会計原理」の授業で使われているイ・ヒョイク他2人共著、『IFRS会計原理』（第5版）を見ると、横21.5センチ・縦26.7センチ¹²⁾、約700ページの15章の構成であり、カラー印刷のハードカバーの本である。また、ソウル大学校の中級会計(1)および中級会計(2)で使われているテキスト、ジョ

9) シラバスは各大学のHPに開示しているものであり、日本語への翻訳は主に共著者である張璿赫君が行ったものである。

10) 韓国の大学授業の3単位とは、週3時間の授業を16週分行うことである。

11) 「中級会計1」と「中級会計2」を、大学によっては「財務会計1」と「財務会計2」、もしくは「財務会計」と「中級財務会計」に分けている大学もある。

ン・ウンオ他3人共著、『IFRS中級会計』（第4版 修正増補版）は、本のサイズは上記の「会計原理」の本と同じ横21.5センチ・縦26.7センチ、1,208ページ、25章構成のソフトカバーである。

このように、本のサイズおよび装丁はアメリカの会計テキストに似ている。

- ⑤ 学生自らの予習・復習が強く求められ、小テストが度々行われている。
- ⑥ 授業での学生の活動が成績評価に反映される場合がある。
- ⑦ 多くの場合、課題が出されているが、主にテキストの各章についている練習問題である。
- ⑧ 「会計原理」の授業内容は、大学によって多少異なるが、主に会計を初めて勉強する学生を対象に、会計の基本概念、複式簿記の一連のプロセス、および「現金・預金」勘定、「売上債権」勘定、「棚卸資産」勘定、減価償却、「金融資産・負債」勘定、「資本」勘定の会計処理に関するものである。
- ⑨ 「中級会計1」の範囲および内容についても大学によって多少異なるが、主に次のような内容である。財務報告の概念体系、財務諸表、棚卸資産、有形資産、無形資産、投資その他の資産等の評価、金融資産・負債等、引当金勘定等についてである。

「中級会計2」の範囲は、資本金会計、複合金融商品、ストック・オプション、一株当たり当期純利益、収益の認識、建設契約の会計処理、リース会計、法人税会計、会計（方針）変更と誤謬の修正、キャッシュフロー計算書、財務報告等である。

「高級会計」は、企業結合会計、投資有価証券の持分法処理、連結財務諸表の作成、外貨換算会計、デリバティブに関する会計、などである。

すなわち、「財務会計」領域の授業を9単位分行っていることが分かる。

- ⑩ 「原価会計」の内容は大学によって様々であるが、原価会計の基本概念、個別原価計算、部門費配分、標準原価計算、総合原価計算、直接原価計算、ABC等である。また、「管理会計」は、CVP分析、意思決定、予算、差異分析、業績評価、戦略的原価管理、などの内容として、「原価会計」および「管理会計」の授業が6単位分行われている。しかしながら、「管理会計」授業の体系は、必ずしも「原価会計」を先に受講するというわけではない。次回の報告書で詳しく説明する予定であるが、管理会計授業の担当者へのインタビューによると原価計算はその内容が難しく受講を忌避される傾向があるため、マネジメントと直接関係があり、内容も理解しやすい管理会計を先に教える傾向があるという。

上記⑧、⑨および⑩から、会計の基本的科目として、「会計原理」が3単位、「財務会計」が9単位、そして「管理会計」が6単位、計18単位の授業が行われていることが分かる。

12) 横21センチ・縦29.7センチのA4サイズより縦が3センチ短い。

Ⅳ カリキュラムおよびシラバスを通じてみる韓国大学の会計教育

本調査は、大学での会計教育のあるべき姿を探るため、まず、現在大学で行われている会計教育の実態を、韓国の大学を中心に調べている段階である。韓国大学のカリキュラムおよびシラバス、そして授業で使われているテキストの調査を通じて、以下の点を見ることができた。

- ① 調査の対象になった国立大学の場合、会計学科などの会計分野を独立させている大学も多くあり、独立した学科ではない場合は経営分野のなかで会計学の授業が行われているが、いずれの場合でも会計学関連科目の開設が多い。
- ② 会計学の基本的科目の履修が18単位（会計原理 3 単位、中級会計(1) 3 単位、中級会計(2) 3 単位、高級会計 3 単位、原価会計 3 単位、管理会計 3 単位）で構成されている。したがって、現在山形大学人文学部の14単位（会計学 4 単位、財務会計 4 単位、管理会計 4 単位、公会計 2 単位¹³⁾）と比較すると、4 単位分が多い。
- ③ 会計の基礎科目としての「会計原理」は専攻必修科目として位置づけている大学が多い。
- ④ 地方国立大学の場合は、税法関連科目の開設が多い。

この点から、ソウルにある一流大学における会計学の授業は「公認会計士」を目指す学生を中心に行われていると言えるが、地方の大学の場合は「公認会計士」を目指す学生も視野に入れながらも「税理士」を目指す学生のためにカリキュラムが編成されていると言える。

- ⑤ 会計学基本科目のシラバスおよびテキストの構成および内容から、アメリカの会計教育の影響を強く受けていることが分かる。

今回の報告では、会計学教育を担当している教員の意識調査のために行ったインタビューの内容を中心に報告するとともに、韓国の大学における会計教育の実態とその長所および問題点を分析し、本調査の問題意識である「大学教育のあるべき姿」を模索する予定である。

（本報告は、2014年度山形大学人文学部のプロジェクト研究として行われたものである。）

参考文献

- イヒョイック・チェ・グァン・ベックウォンソン共著、『IFRS会計原理』第5版、シンヨン社、2014年。
- ジョンウンオ・ナインチョル・イミョンゴン・ゾソンピョウ共著、『IFRS中級会計』第4版修正増補版、経文社、2014。

13) 公会計は2015（平成27）年度からの開講科目である。

〔付録1〕 教育課程（カリキュラム）における会計関連科目および位置づけ

① 江陵原州大学校＞社会科学大学＞会計学科における会計関連科目の教育課程

	学 年	1学期	2学期
専攻基礎	1 年次	会計原理Ⅰ	会計原理Ⅱ
専攻必修	2 年次	中級会計Ⅰ 原価会計 会計資料処理論	管理会計 中級会計Ⅱ 税法
専攻選択	2 年次	会社法	会計情報システム 財務管理
	3 年次	高級会計 原価会計演習 税務会計Ⅰ 会計学研究方法論	財務会計演習 税務会計Ⅱ 経営分析 管理会計演習 ERP会計 非営利会計
	4 年次	企業価値評価論 会計理論 会計監査	会計学セミナー 会計学特講 国際会計 会計監査事例

② 慶南科学技術大学校＞商経大学＞会計情報学科における会計関連科目の教育課程

学 年	1 学期	2 学期
1 年次	会計学原理 会計原理(Ⅰ)	電子商取引原論 会計原理(Ⅱ) 原価会計(Ⅰ) 税法
2 年次	会計情報システム 企業会計基準書解説 商法 中級財務会計(Ⅰ) 管理会計 電算会計実習	原価会計(Ⅱ) 財産税実務 中級税務会計(Ⅱ) 法人税実務 高級管理会計
3 年次	原価会計演習 財務管理	電算税務会計実習 会計理論 財務会計演習 非営利会計 ERPシステム管理 会計監査 財務諸表分析 連結財務諸表論
4 年次	地方税実務 管理会計実習 会計資料処理実習 会計学セミナー 会計史 税務会計演習	高級財務会計 電算原価分析実習 産業体現場実習

- ③ 慶北大学校＞経商大学＞経営学部＞会計学専攻における会計関連科目の教育課程
教育課程を入手することができなかった。

- ④ 慶尚大学校＞経営大学＞会計学科における会計関連科目の教育課程

学 年	専 攻 必 修	専 攻 必 修
1 年次	会計原理Ⅰ	
2 年次	会計原理Ⅱ 管理会計 財務管理 会計帳簿組織論	原価会計 中級会計Ⅰ 会社法 税法概論 地方税
3 年次	会計理論 中級会計Ⅱ 会計監査 税務会計	電算会計 会計監査実務 投資論 付加価値税 企業会計基準論Ⅰ 管理会計演習
季節学期	現場実習Ⅰ(冬季4週)	
4 年次		高級会計 財務諸表分析 非営利組織会計 連結会計 企業会計基準論Ⅱ
季節学期	現場実習Ⅱ	

- ⑤ 公州大学校＞人文社会科学大学＞経営学科における会計関連科目の教育課程

学 年	専 攻	
	必 修	選 択
1 年次	会計原理	
2 年次	財務会計、財務管理	
3 年次		管理会計、経営分析、税務会計
4 年次		

⑥ 群山大学校＞社会科学大学＞経営学部＞会計学科における会計関連科目の教育課程

学 年	専 攻
1 年次	会計原理、会計原理(1)
2 年次	Financial Accounting (1)、税法概論、原価会計(1)、中級会計(1)
3 年次	管理会計(1)、所得税会計、電算会計、特殊会計、現場実務、現場実習
4 年次	企業法、会計監査、現場実務、現場実習

⑦ クムオ工科大学校＞経営学科

具体的な教育課程を入手することができなかった。

⑧ 木浦大学校＞経営大学＞経営学科における会計関連科目の教育課程

専攻必修	会計原理、財務管理
専攻選択	原価会計、中級会計、ERP実務、電算会計、 税法（所得税法および付加価値税法）、税務会計 管理会計

⑩ 釜慶大学校＞経営大学＞経営学部＞会計／財務学専攻における会計関連科目の教育課程
(2014年度)

学 年	専 攻		
	共 通	必 修	選 択
1 年次	企業会計原理		
2 年次	財務管理	財務会計	商法、原価会計、中級財務会計、企業法
3 年次	経営情報論	管理会計 先物とオプション	税法概論、政府および非営利会計、電算税務会計、税務会計、経営分析、企業財務論、高級財務会計、
4 年次			国際財務論、会計監査、高級税務会計、高級財務管理

⑪ 釜山大学校＞経営大学における会計関連科目の教育課程

専 攻	基 礎	会計学原理
	必 修	財務会計、財務管理、管理会計
	選 択	商法、原価会計、国際財務管理、財務会計Ⅱ、会計監査、税法、 会計情報システム、税務会計、財務分析、高級会計

⑫ ソウル科学技術大学校＞技術経営融合大学＞グローバル経営学科＞経営学専攻における
会計関連科目の教育課程

学 年		1 学 期	2 学 期
1 年次	専攻必修	会計原理	会計原理 Principles of Accounting
2 年次	専攻必修	財務管理 Financial Management	財務管理
	専攻選択	財務会計 Financial Accounting	中級会計 Intermediate Accounting
3 年次	専攻必修		
	専攻選択	原価・管理会計 Cost and Management Accounting	投資論 Investments
4 年次	専攻必修		
	専攻選択	キャップストーン・デザイン(会計) 税務会計(1)	ERPとOperation Manament 税務会計(2) 会計監査

* 英語の科目名は英語による授業

⑬ ソウル大学校＞経営大学

学 年		1 学 期	2 学 期
1 年次			会計原理
2 年次	中級会計 I		財務管理 中級会計 II
3 年次	管理会計 財務諸表分析及び企業価値評価 会計監査 投資論		原価計算 企業財務論 税務会計
4 年次	高級会計 財務特講 会計学特講		

⑭ 順天大学校＞社会科学大学＞会計学科における会計関連科目の教育課程

学 年		1 学 期	2 学 期
1 年次	必 修		会計原理
2 年次	必 修	中級会計 I 原価会計 会計英語	税務会計
	専攻選択		中級会計 II 管理会計原理
3 年次	専攻必修	会計情報システム I 会計理論	管理会計
	専攻選択	企業税務 財務管理 商法	会計情報システム II 企業財務 高級会計 財務諸表分析

4 年次	専攻必修	会計監査	国際会計英語
	専攻選択	税務申告実習 財務会計特講 論文研究 I	論文研究 II 非営利会計 会計史 ERP会計

⑮ 安東大学校＞社会科学大学＞会計学科における会計関連科目の教育課程

学 年		1 学 期	2 学 期
1 年次	共通基礎	会計原理	企業会計
2 年次	専攻選択	中級会計(1) 原価会計(1) 財務諸表論 税法概論	中級会計(2) 管理会計(1) 原価会計(2) 企業財務 税務会計 I
3 年次	専攻選択	管理会計(2) 税務会計 II 財務会計演習 商法	会計学理論 高級会計 税務会計演習 電算会計 原価管理会計演習
4 年次	専攻選択	会計監査 会計情報システム 政府会計	国際会計 財務諸表分析 会計監査演習

⑯ 蔚山科学技術大学校＞経営学部＞Finance／Accounting [FIA] プログラムにおける会計関連科目の教育課程（推奨するコース教育課程）

学 年		1 学 期	2 学 期
2 年次	必 修	財務会計 管理会計 財務管理	財務会計 管理会計 財務管理
3 年次	専攻必修	中級会計1	
	専攻選択	投資論 国際財務 原価管理戦略 企業財務論	投資論 先物とオプション 国際財務
4 年次	専攻選択	財務事例研究 税務会計 投資実務 高級企業財務論 I 商法総論 監査論概論	財務諸表分析 企業価値評価 高級企業財務論 II

* 全科目が英語による授業

⑰ 仁川大学校＞経営大学＞税務会計学科

会計学（会計原理、中級会計、財務会計、原価会計、管理会計等）の他、経済学、経営学、法学、行政学、財政学等を土台に税法（税法総論、所得税法、法人税法、消費税法、財産税法、地方税法、相続贈与税法）、税務申告実務、租税政策、国税租税、等の多様な教科目を開設し、税務に関する専門知識を養うようにする。

⑱ 全南大学校＞経営大学＞経営学部における会計関連科目の教育課程

学 年		1 学 期	2 学 期
1 年次	専攻選択	会計原理	会計原理
2 年次	専攻必修	中級会計1	財務管理
	専攻選択	原価会計 原価管理会計 財務会計	管理会計 企業法 中級会計 2 電算会計
3 年次	専攻必修		
	専攻選択	投資論 会計監査 会計情報システム 高級会計 税務会計 1 経営分析	税務会計 2 国際財務論 政府会計
4 年次	専攻必修		
	専攻選択		

⑲ 全北大学校＞商科大学＞経営学部

具体的な教育課程を入手することができなかった。

⑳ 済州大学校＞経商大学＞会計学科における会計関連科目の教育課程

学 年		1 学 期	2 学 期
1 年次	専攻必修	会計原理	
	専 攻	会計原理演習	
2 年次	専攻必修	原価会計、財務会計Ⅰ、財務会計Ⅱ	
	専 攻	税法概論、管理会計、所得税及び付加価値税会計、電算会計	
		財務管理	政府及び非営利会計、会社法
3 年次	専攻必修	法人税会計	
	専攻選択	会計監査	
		財務諸表分析 地方税会計 管理会計演習	会計理論 税務会計実務 特殊会計 会計情報システム

4 年次	専攻選択	電算税務会計	
		会計監査実務 税務会計キャップストーンデザイン 会計現場実習Ⅰ 財務会計演習	会計学特講 管理会計実務 会計管理キャップストーンデザイン 会計現場実習Ⅱ 会計倫理

㉑ 昌原大学校＞経営大学＞会計学科における会計関連科目の教育課程

学 年		1 学 期	2 学 期
1 年次	専攻選択		会計原理
2 年次	専攻必修	中級財務会計1	原価会計、電算会計1
	専攻選択	商法特講	税法概論 中級財務会計2
3 年次	専攻必修		
	専攻選択	管理会計 税務会計 財務管理 会計情報システム	原価管理会計演習 財務会計演習 電算税務会計 電算会計2
4 年次	専攻必修	卒業論文	
	専攻選択	ERP製造・物流システム ERP会計・人事システム 高級財務会計 財務諸表分析 会計監査	国際会計 税務会計演習 会計監査演習

㉒ 忠南大学校＞経商大学＞経営学部＞会計学科における会計関連科目の教育課程

学 年		1 学 期	2 学 期
1 年次	共通選択	会計原理	会計原理
2 年次	専攻必修	中級会計1 財務管理 原価会計1	中級会計1 財務管理 原価会計1
	専攻選択		中級会計2
3 年次	専攻必修		
	専攻選択	税務会計 財務諸表分析 高級会計 原価会計2	経営分析 グローバル財務管理 会計監査 戦略的原価管理 税務会計2
4 年次	専攻選択	財務意思決定	政府会計

㉓ 忠北大学校＞経営大学＞経営学部における会計関連科目の教育課程

学 年		1 学 期	2 学 期
1 年次	専攻必修	会計原理	会計原理
2 年次	専攻必修	原価会計 財務管理	原価会計 財務管理
	専攻選択	会社法 中級会計Ⅰ	管理会計 中級会計Ⅱ 財務会計理論と実務
3 年次	専攻選択	高級会計 税法概論 投資論	税務会計 会計監査 会計監査
4 年次	専攻選択	戦略的管理会計 特殊財務管理	原価管理システム

㉔ 韓京大学校＞人文社会科学大学＞経営学科

学 年		1 学 期	2 学 期
1 年次	専攻必修		
2 年次	専攻選択	会計原理、税法	中級会計、財務管理
3 年次	専攻選択	原価管理会計	
4 年次	専攻選択		

㉕ 韓国交通大学校＞社会科学大学＞経営学科における会計関連科目の教育課程

学 年		1 学 期	2 学 期
1 年次	専攻必修		
2 年次	専攻必修	会計原理、財務管理	
	専攻選択		財務会計、企業財務
3 年次	専攻選択	原価会計	会計情報システム、投資論
4 年次	専攻選択	管理会計	財務諸表分析

㉖ ハンバツ大学校＞経商大学＞経営会計学科における会計関連科目の教育課程

専 攻	必 修	財務会計学概論、中級会計、原価会計、税法概論、財務管理
	選 択	

【付録2】 会計基本科目のシラバスの例

4-1 専攻基礎科目として会計原理のシラバス

① 成均館大学校

2014年度2学期

教科名	会計原理		
単位	3		
担当教授（連絡先）	省 略		
テキスト及び参考文献	イ・ヒョイック他2人、『IFRS会計原理』（第5版）、2014年1月。		
授業目標及び概要	<p>本講義は会計に初めて接する学生に、会計の基本概念及び会計処理手続きを習得させ、その基本原理を把握させることに目的がある。具体的には</p> <ul style="list-style-type: none"> －財務会計の基本概念及び会計処理手続きの紹介 －財務諸表及び会計実務を理解し、評価する基礎能力の向上 －今後、関連分野を先行するに必要とされる会計応用能力の増進等に焦点を当てる。 <p>#注意：予習・復習で毎週9時間程度の時間を費やせる場合のみ受講を勧める。</p>		
成績評価方法	中間テスト1	100点	2014年10月11日（土9：30～11：30）
	中間テスト2	100点	2014年11月18日（土9：30～11：30）
	期末テスト	150点	2014年12月6日（土9：30～11：30）
	小テスト&課題	100点	授業中随時（5回以上）
	総計	450点	
出席および試験に関する注意事項	<p>1. 出席 欠席が全体の1／4以上の場合、Fとする。それ以下の場合、欠席時間あたり一定点数を総点から減点する。</p> <p>2. 中間テスト及び期末テスト 2回の中間テストと1回の期末テストのうち、いずれかを欠席すると最終評価はFとする。 小テストに備え、電卓は毎回の授業へ必ず持参すること</p> <p>3. 小テスト及び予習課題物 予告なしに授業開始直後または終了直前数回実施し、課題を含めて100点を最終点数へ加算する。小テストの範囲は当日の学習内容及び予習課題物が主要範囲となる。 予習課題物は既に読んできたという前提で授業を進める。課題の内容は小テストに反映されるため、必ず授業前までに予習すること。しかし、別途告知があるまでは提出しなくてもいい。</p>		
週	授業内容		予習課題
1週 9/1	科目紹介 会計システムの基本構造		1章(問)1,2,5,6(練)1,2,4,5,6,8,10,11
2週 9/10	会計取引と会計等式		2章(問)1,3,4,6,7,8(練)1,2,3,4,7,11,12
3週 9/15	取引の記録と会計帳簿		3章(問)1,2,3,8,11,12(練)2,3,6,8,12,14
4週 9/22	会計循環過程の完了		4章(問)2,3,4,8(練)1,2,4,6,7,11,12
5週 9/29	商品売買会社の会計循環過程		5章(問)1,4,5,7,9(練)3,5,9,13,14
6週 10/6	財務報告と収益認識		6章(問)2,4,5,6,7,8(練)2,3,5,7,8
	中間テスト#1		範囲 1-6章
7週 10/13	現金と金融商品		7章(問)1,4,6,7,8(練)4,5,6,9,10,11
8週 10/20	売掛金と買掛金		8章(問)1,4,5,6,9,10(練)2,3,4,6,8,10,13,15
9週 10/27	棚卸資産		9章(問)3,7,10,11(練)2,3,4,11,12,13

10週 11/3	有形資産及び無形資産	10章(問)1,2,5,6,7,11 (練)2,3,4,6,7,7,11,12,15,17
	中間テスト2	範囲 7-10章
11週 11/10	金融資産及び関係企業投資株式	11章(問)1,2,3,4,5,7(練)1,2,3,5,6,7,7,9
12週 11/17	非流動負債	12章(問)2,3,5,9,10 (練)1,3,4,5,6,7,7,9,10,11,14
13週 11/24	資本	13章(問)2,3,7,7,11,12 (練)1,3,5,6,7,11,12,13
14週 12/1	キャッシュフロー計算書	14章(問)1,2,3,4,6,9,12 (練)1,2,3,4,5,6,7,10,11,13
	期末テスト	全部(1-10章および11-14章)
15週 12/7	全体復習	1-14章質問、期末試験解答及び採点確認

② 延世大学校のシラバス

2014年度2学期

教科名	会計原理(1)
講義時間	火8・9、木7
担当教授	省 略
担当教授所属	経営大学経営学科
受講対象	会計原理についての知識を探究しようとする学部生
授業目標及び概要	<p>会計は本質的に一種の情報システムである。企業には内外に意思決定者が存在し、彼らは正しい意思決定のため正しい情報を求めている。すなわち情報が非対称である状態を解消させ、正しい意思決定ができるようにする分野が会計であり、このような会計は情報利用者が誰かによって大きく財務会計と管理会計の2つに区分できる。本講義では、財務会計について重点的に学習し、管理会計については基本概念程度のみ紹介する。残りの部分は、管理会計教科で扱うこととする。</p> <p>本講義の具体的な目標は以下のとおりである。</p> <ul style="list-style-type: none"> - 社会の中で会計が遂行する役割と貢献を通じて、会計の重要性を理解する。 - 会計の基礎概念の理解と基本用語の熟知 - 会計情報の算出方法 (= 会計報告書作成方法) に対する理解を通じて究極的に会計情報の活用方法を理解する。 - 財務諸表の構成要素の学習、主要取引の類型別会計処理を具体的に理解する。
先修科目 (学習)	<p>なし。</p> <p>会計原理は、会計学の基礎概念と会計実務のための複式簿記の原理を学習する科目である。そこで、会計原理科目の性格上、会計の概念と記述を同時に習うため、会計学を初めて習う学生にとっては講義の内容が多少難しく感じることもあると思われる。</p> <p>経験から見て、いくらわかりやすく講義をしても、受講生が自ら予習と復習を徹底的にしなければ、会計学で良い成果を出すことは難しいため、受講生の準備が必要となる科目である。</p>
講座運営方式	<p>テキストと講義ノートを中心とした理論講義とともに、言論記事解説及び練習問題などの課題を通じて企業の会計実務に関する理解を図る。企業の実際の財務諸表を利用した財務諸表の理解と分析方法の講義も平行する。学生の積極的な参加 (質問・答え・意見提示) をお勧めし、これを成績にも反映する。</p>

成績評価方法	<p>1. 試験280点：中間テスト100点、期末テスト150点、小テスト30点（テストの際、電卓&学生証持参、携帯電話は使用不可）</p> <p>2. 課題80点：言論記事解説課題60点（30点×2回）、練習問題集課題20点（10点×2回）</p> <p>3. 寄与度40点：積極的に質問・答え・意見提示を行う場合加算点賦課</p> <p>4. 総点400点：出欠点数は総点から減点、無断欠席及び態度不良2点、遅刻1点、ただし事由欠席（事由書添付）は0点</p> <p>※注意事項：次のような場合は、Fとなる。</p> <p>－欠席日数1／3超過</p> <p>－中間テストと期末テストへの欠席</p>	
テキスト及び参考文献	<p>1. テキスト：ソン・ソングュ、イ・ホヨン共著「IFRS会計原理－経営意思決定の道具」第12改定版、法文社</p> <p>2. 講義ノート</p> <p>3. 会計原理練習問題集</p> <p>4. 現代自動車の2013年度連結監査報告書：金融監督院電子公示システム（DART）参照</p> <p>5. 参照サイト：韓国会計基準院－企業会計基準及び基準書、財務会計概念体系、IFRS等</p>	
教授情報	省 略	
TA情報	省 略	
週3時間	授業内容	テキスト範囲、課題
1 9/1－07	会計の機能、要素、概念的構造	第1章 復習問題2.5／練習問題1－5
2 9/8－14	会計取引、資料の収集、取引の分析	第2章 復問3.5,6,11,17／ 練問2.9,13,20～23
3 9/15－21	勘定科目設定、仕訳帳の設定、発生主義	第2章 会計の循環過程：財務状態及び損益勘定科目の決定
4 9/22－28	決算整理仕訳	第3章 復問1.9,11／練問9,17～22
5 9/29－ 10/5	決算整理および決算仕訳	第3章 会計の循環過程：決算整理仕訳および決算仕訳
6 10/6－12	資産、資本、貸借対照表の作成	第4章 復問1,6,13／ 練問2,6～12、課題提出
7 10/13－19	収益と費用の認識、測定、損益計算書の作成	第5章 復問1.7／練問3.8～10
8 10/20－26	中間テスト	
9 10/27－11/2	流動性と企業の現金管理、内部統制、銀行口座調整	第6章 復問1.4／練問1.7,9～12,14
10 11/3－9	売上債権の記録及び評価、買掛金	第7章 復問1.3／ 練問3.4,7,21,22,25,27,30,31,33～36
11 11/10－16	棚卸資産の数量把握と評価	第8章 復問4～6／ 練問5,16,19,20,22,25,27～33
12 11/17－23	有形資産と無形資産の評価、減価償却費の計算	第9章 復習問題2.8,9 練習問題7.8,10,20,23
13 11/24－30	金融資産の分類、測定、持分法投資株式	第10章 復習問題2.4練習問題1～9
14 12/1－7	社債及びその他の非流動負債	第11章 復習問題2.4練習問題1.6～10
15	総合整理	
16	期末テスト	

4-2 専攻必修科目として中級(財務)会計Ⅰのシラバス

① 延世大学校

2014年度 2 学期

教科名	中級会計(1)	
単位	3	
講義時間	水 1 金 1・2	
当教授	省 略	
担当教授所属	経営大学経営学科	
研究室	省 略	
受講対象	会計原理を履修した上、財務会計の深化学習を希望する学生	
授業目標及び概要	<p>中級会計は財務会計と管理会計のうち、財務会計に該当する分野であり、財務会計の核心情報源泉である財務諸表を正しく算出し、理解及び活用するため学習すべき多様な会計テーマ、関連概念、会計処理方法、財務諸表の作成及び公示方法について詳しく扱う科目である。中級会計の講義は会計原理で学習した財務会計原理を基礎とし、韓国採択国際会計基準(K-IFRS)を中心に詳細な会計テーマと会計処理方法、財務諸表作成及び公示方法等に関する内容を具体的に学習することを目標とする。中級会計の科目は扱う内容がとても膨大であるため、一般的に中級会計1と2に分けて講義する。中級会計1は関連概念から金融資産を除き、資産まで学習する。受講生は各会計処理方法を機械的に暗記するよりは可能な限り概念的に学習し、該当会計処理が究極的に財務諸表へいかなる影響を及ぼすか、また情報利用者が重要とする財務比率にいかなる影響を及ぼすかを考えながら学習することが望ましい。</p>	
先修科目 (先修学習)	<p>会計原理</p> <p>中級会計の学習量はとても膨大であり、中級会計1と2にわけて学習するにもかかわらず、決して少ない量ではない。時間的制約によって中級会計のすべての内容を授業時間に扱うことはできないので受講生は授業時間に言及していない内容であっても各自予習と復習を行うことを勧告する。</p>	
講座運営方式	<p>講義中心(電卓持参)</p> <p>講義に関する質問がある場合、メールやウェブクラスで問い合わせするよりは、講義時間または休み時間を前後として直接質問したほうが効果的であることを念頭に置いてほしい。</p>	
成績評価方法	<p>中間テスト 150 期末テスト 100 授業貢献度及び課題 50(課題30+出席20→欠席1回あたり2点減点) 成績評価方法: 相対評価 類似事項: テストに全て出席し、欠席が7回以下でないと単位をもらえない。やむを得ず欠席する場合は、必ず事前に連絡し、次の授業時間まで欠席事由書とともに証拠資料を提出しなければならない。</p>	
テキスト及び参考文献	<p>中級会計K-IFRS 第1版 キム・ジホン、パン・ソンソップ 2014 参考サイト: 韓国会計基準院 (http://www.kasb.or.kr)</p>	
教授情報		
TA情報		
週	授業内容	テキスト範囲、課題
1 9/1-7	講義紹介 第1章 財務会計の環境と会計基準	
2 9/8-14	第2章 財務報告のための概念体系(1)	
3 9/15-21	第2章 財務報告のための概念体系(2)	

4	9/22-28	第3章 財務諸表	
5	9/29-10/5	第4章 貨幣の時間価値と公正価値	
6	10/6-12	第5章 棚卸資産(1)	
7	10/13-19	中間テスト	
8	10/20-26	第5章 棚卸資産(2)	
9	10/27-11/2	第6章 有形資産(1)	
10	11/3-9	第6章 有形資産(2)	
11	11/10-16	第8章 再評価モデルと資産減損	
12	11/17-23	第7章 無形資産(1)	
13	11/24-30	第7章 無形資産(2)	
14	12/1-7	第9章 投資不動産、探査評価資産、生物資産	
15	12/8-14	第10章 政府補助金と借入原価の資本化	
16	12/15-21	期末テスト	

② ソウル大学

2014年度2学期

教科名	中級会計1
単位	3
講義時間	月 14:00~17:00
担当教授	省 略
担当教授所属	経営学科
研究室	省 略
学生面談時間	メールを通じた時間決定
講義の目的	会計原理を履修した受講生を対象とし、会計原理より深化した財務会計の概念及び会計処理の手續きについて学習する。
成績評価方法	<p>※中間テスト40%、期末テスト60%</p> <p>※テストの日時及び場所は正規授業と同じである。万一変更があった場合は、事前に告知する。</p> <p>※テストの際は時計、筆記用具及び電卓のみ持参することができる。スマートフォンのような各種データを保存、確認できる電子機器の持ち込みを一切禁止する。発覚した場合、不正行為として取り扱う。</p> <p>※不正行為が摘発された学生の成績はFとする。</p> <p>※事前に許可を得ずに無断でテストに欠席した場合、該当試験を0点とする。やむを得ない場合は、事前に相談が必要であり、その場合の評価方法は相談後決定する。</p>
テキスト及び参考文献	ジョン・ウンオ、ナ・インチョル、イ・ミョンゴン、ジョ・ソンピョ、『IFRS中級財務会計』第4版 修正増補版
授業計画	
週	授業内容
1 9/1	科目紹介、第1章 財務会計の本質と制度的側面
2 9/15	第2章 財務報告と概念体系
3 9/22	第3章 財務諸表
4 9/29	第4章 会計と貨幣の時間価値
5 10/6	第5章 収益と費用

6	10/13	第6章 棚卸資産1：流通企業
7	10/20	第7章 棚卸資産2：生産企業
8	10/27	中間テスト
9	11/3	第8章 有形資産1：認識と測定
10	11/10	第9章 有形資産2：減価償却・仕損・再評価
11	11/17	第10章 無形資産・投資不動産・売却予定非流動資産
12	11/24	第11章 金融資産1：持分投資と債券投資
13	12/1	第12章 金融資産2：貸出金・売掛金・現金
14	12/8	第13章 特殊な持分投資と営業権
15	12/15	期末テスト

4-3 専攻選択科目として中級（財務）会計Ⅱのシラバス

① 延世大学校

2014年度 2 学期

教科名	中級会計(2)
単位	3
講義時間	火1、木2・3
担当教授	省 略
担当教授所属	経営大学経営学科
研究室	省 略
受講対象	会計原理(1)及び中級会計(1)を履修した上、財務会計の深化学習を希望する学生
授業目標及び概要	<p>中級会計は財務会計と管理会計のうち、財務会計に該当する分野であり、財務会計の核心情報源泉である財務諸表を正しく算出し、理解及び活用するため学習すべき多様な会計テーマ、関連概念、会計処理方法、財務諸表の作成及び公示方法について詳しく扱う科目である。中級会計の講義は会計原理で学習した財務会計原理1を基礎とし、韓国採択国際会計基準（K-IFRS）を中心に詳細の会計テーマと会計処理方法、財務諸表作成及び公示方法等に関する内容を具体的に学習することを目標とする。中級会計の科目は扱う内容がとても膨大であるため、一般的に中級会計1と2に分けて講義する。</p> <p>中級会計(2)では、金融商品、負債、資本、株式に基づく報酬、収益の認識とその他の財務会計テーマである1株あたり当期純利益、リース会計、法人税会計、会計変更と誤謬修正、キャッシュフロー計算書などを学習する。</p> <p>受講生は各会計処理方法を機械的に暗記するよりは可能な限り概念的に学習し、該当会計処理が究極的に財務諸表へいかなる影響を及ぼすか、また情報利用者が重要とする財務比率にいかなる影響を及ぼすかを考えながら学習することが望ましい。</p>
先修科目（学習）	<p>会計原理(1)及び中級会計(1)</p> <p>中級会計の学習量はとても膨大であり、中級会計1と2にわけて学習するにもかかわらず、決して少ない量ではない。時間的制約によって中級会計のすべての内容を授業時間に扱うことはできないので受講生は授業時間に言及していない内容であっても各自予習と復習を行うことを勧告する。</p>

講座運営方式	講義中心（電卓持参） 講義に関する質問がある場合、メールやウェブクラスで問い合わせするよりは、講義時間または休み時間を前後として直接質問したほうが効果的であることを念頭に置いてほしい。	
成績評価方法	中間テスト 100 期末テスト 150 →テストの際、電卓、学生証持参、携帯は使用不可 授業貢献度及び課題 50（課題30＋出席20→欠席1回あたり2点減点） 成績評価方法：相対評価 類似事項：テストに全て出席し、欠席が7回以下でないと単位をもらえない。やむを得ず欠席する場合は、必ず事前に連絡し、次の授業時間まで欠席事由書とともに証拠資料を提出しなければならない。	
テキスト及び参考文献	中級会計K-IFRS 第1版 キム・ジホン、パン・ソンソップ 2014 参考サイト：韓国会計基準院（ http://www.kasb.or.kr ）	
教授情報		
TA情報		
週	授業内容	テキスト範囲、課題
1	講義紹介 第11章 金融資産(1)	
2	第11章 金融資産(2)	
3	第12章 金融負債	
4	第13章 見積負債と偶発負債及びその他の金融負債	
5	第14章 資本会計	
6	第15章 複合金融商品	
7	中間テスト	
8	第16章 給与と株式に基づく報酬	
9	第17章 1株あたり当期純利益	
10	第18章 収益の認識(1)	
11	第18章 収益の認識(2)	
12	第19章 リース会計	
13	第20章 法人税会計	
14	第21章 会計変更と誤謬修正	
15	第22章 キャッシュフロー計算書	
16	期末テスト	

② 成均館大学校

2013年度 2 学期

教科名	中級会計 2	
単位	3	
講義時間	金 15:00～16:15 金 16:30～17:45	
担当教授	省 略	
授業目標及び概要	<p>中級会計の前半を学習した学生を対象に韓国採択国際会計基準(K-IFRS)に基づいた高級財務会計の理論、概念、原則及び手続きを習得させることを目標とする。具体的には資本会計及び財務会計の特殊分野(転換証券、収益認識、リース、法人税等)に関する知識を習得し、財務会計の機能及び限界に関する知識を学ぶ。なお、財務会計関連理論及び実務を理解し、評価できる能力を向上する。これは経営判断が必要となる複雑な状況で、問題解決のため適した資料を識別できることを求める、実際問題及びケースを解決することで達成できると思われる。</p> <p>つまり、本科目は経営学と会計学をより深層的に勉強できる基礎を提供することに目的があるといえる。</p>	
成績評価方法	<p>中間テスト 100 中間テスト 2 100 期末テスト 100 小テスト&発表 100 計400</p>	
テキスト及び参考文献	K-IFRS 中級財務会計 ソン・インマン他 2 人 2012	
週	授業内容	テキスト範囲、課題
1 週目	講義紹介/資本会計(1)	第15章
2 週目	複合金融商品	第16章
3 週目	株式に基づく報酬	第17章
4 週目	1 株あたり当期純利益	第17章
5 週目	秋夕休日	
6 週目	レビュー&中間テスト(15-17章)10/2(金) 9:30～11:00	
7 週目	収益の認識	第18章
8 週目	建設契約の会計処理	第18章
9 週目	リース会計	第19章
10週目	法人税会計	第20章
11週目	レビュー&中間テスト(18-20章)11/16(金) 9:30～11:00	
12週目	会計変更と誤謬修正	第21章
13週目	キャッシュフロー計算書	第22章
14週目	財務報告および完全開示	第24章
15週目	レビュー	
16週目	レビュー&期末テスト(中級21, 22, 24章)午前 9:30～11:00	

4-4 専攻選択科目として高級会計のシラバス

① 成均館大学校

2014年度1学期

教科名	高級会計	
単位	3	
担当教授	省 略	
担当教授所属	経営学科	
研究室	省 略	
Office Hour	毎週月・水の授業後（または）事前アポイントメントで	
テキスト	キムムンチョル他3人共著『K-IFRS高級財務会計』第3版	
授業目標及び概要	K-IFRS（韓国採択国際会計基準）に基づいた高級財務会計の理論、概念、原則及び手続きを修得することを目的とする。具体的には 1）財務会計の高級部分に関する知識を習得し、財務会計の機能、限界及び発展方向に関する知識を習い、 2）事業結合、連結、為替換算、派生商品、政府会計等、財務会計の高級分野に関する理論及び実務を理解し評価できる能力を向上させる。 以上の2点は、経営判断が必要となる複雑な状況で、問題解決のため適した資料を識別できることを求める、実際問題及びケースを解決することで達成できると思われる。 つまり、高級会計科目は、経営学と会計学をより深く学習することに必要な基礎を提供することにその目的があるといえる。	
成績評価方法	本科目の最終評価は次のような配点（総点300点）によって行われる。 中間テスト 100 期末テスト 100 小テスト（4回） 60 レポート＆発表 40 合計 300 テスト：電卓を使用することができる。特別な事情によって予定時間に試験に出席出られない場合は、事前に相談した場合に限って試験時間を変更することができる。 小テスト：4回実施。この中で点数の高い3回の合計を成績に反映する。 レポート：チーム（最大3人）が関連テーマに関して2ページ程度で作成。	
週	授業内容	テキスト範囲、課題
1 3月3日	授業紹介および事業結合会計	高級第1章
2 10日	事業結合会計（継続）	第1章
3 17日＊	投資株式	第2章
4 24日	連結会計	第3章＆4章
5 31日＊	内部取引と未実現損益	第5章
6 4月7日	持分変動	第6章
7 14日	レビュー	
8 21日	中間テスト（1－6章）	範囲：第1章から第5章まで
9 28日	複雑な持分構造	第7章
10 5月5日＊	為替変更効果	第9章
11 12日	金融派生会計	第10章
12 19日＊	政府会計	第11章～13章
13 26日	政府会計	第11章～13章

14	6月2日	レビュー
15	9日	期末テスト(7章、9章~13章)
<p>*は、小テストがある週</p> <p>注 1. 事前にしなければならない課題が終わったことを前提に授業が行われるため、徹底した事前準備が必要である。</p> <p>2. 授業中、積極的質問および討論を行うことを奨励する。授業への参加度が成績評価に加算されることもある。</p> <p>レポートのテーマ</p> <p>1. 我が国の企業のなかで、個別財務諸表分析に比べて連結財務諸表が特に有益であると思われる企業を選定し(選定の理由記述)、当該企業の"連結と個別"財務諸表情報について簡略に比較説明せよ。また、当該企業の"報告実態に対する政策"について要約・整理し、その政策の妥当性について論じなさい。</p> <p>2. 我が国の企業のなかで、為替変動が財務諸表へ及ぼす影響が大きい企業を選び(選定の理由記述)、当該企業の為替変動と関連がある財務報告の内容を要約しなさい。そしてその企業が為替変動のリスクを避けるためにデリバティブをどのように活用しているのかを評価しなさい。</p>		

4-5 専攻必修科目として原価会計もしくは管理会計のシラバス

① 延世大学校のシラバス

2014年度2学期

教科名	原価会計
単位	3
講義時間	火7・8・9
担当教授	省 略
担当教授所属	経営大学経営学科
研究室	省 略
受講対象	会計原理(1)を履修し、公認会計士資格試験を準備しているか、もしくは卒業後の進路として企業の原価管理会計専門家(コンサルティング業務もしくは企業内部原価管理会計担当業務)を考慮している学生
授業目標及び概要	<p>この科目は、原価会計における原価配分問題、そして原価配分が経済的意思決定へいかなる影響を及ぼすかを理解すること、そして営業活動の計画と統制のためにいかなる情報が必要であり、またこの情報がいかに使用されるかを理解することである。</p> <p>基本的な原価計算制度、関連原価と意思決定を含む伝統的な原価会計のテーマはもちろん、ライフサイクルコスト、活動基準原価計算、バランススコアカード、戦略的収益性分析等の最近のテーマを扱う。また、結合原価の配布、仕損及び再作業等のように管理会計では一般的に扱わないテーマについても勉強する。</p>
先修科目(学習)	会計原理
講座運営方式	<p>主に学習テーマに関する講義を中心とし、学習した内容と関連する練習問題を授業時間に扱う。</p> <p>受講生に学習内容を復習させ、なお問題解決能力と思考力を増進させるため、講義内容と関連した課題が毎週出される。受講生はこの課題を毎週提出しなければならない。</p> <p>学則により、1/3以上欠席した場合、試験の成績と関係なくFとなる。</p> <p>妥当な事由による欠席は、欠席事由書提出の場合、欠席は記録されるが成績には反映しない。</p>
成績評価方法	中間テスト100、期末テスト100、出席40、報告書40、合計280

テキスト及び参考文献	テキスト - Cost Accounting (原価会計) ハングル第14版、ホーングレン著 - 原書で勉強することを希望する場合：“Cost Accounting” by Horngren, Datar&Foster, 14th Edition, Prentice Hall 参考文献 イ・チャンウ外3人共著「原価管理会計」 “Cost Management” by Hilton, Maher&Selto, McGraw Hill “Cost Management” by Blocher, Chen, Cokins&Lin, McGraw Hill	
教授情報	省 略	
TA情報	なし	
週 期 間	授業内容	テキスト範囲、課題
1 14/9/1 - 7	第1章 経営と原価管理会計情報 第2章 原価の概念と原価計算の目的	Ch 1 The Accountant's Role in the Organization Ch 2 An Introduction to Cost Terms and Purposes
2 14/9/8 - 14	原価 - 操業度 - 利益分析	Ch 3 Cost-Volume-Profit Analysis
3 14/9/15 - 21	第3章 個別（作業別）原価計算	Ch 4 Job Costing
4 14/9/22 - 28	第3章 個別（作業別）原価計算	Ch 4 Job Costing
5 14/9/29 - 10/5	第5章 活動基準原価計算と活動基準経営管理	Ch 5 Activity-Based Costing and Activity-Based Management
6 14/10/6 - 12	標準原価計算：直接費差異分析	Ch 7 Flexible Budgets, Direct-Cost Variances, and Management Control
7 14/10/13 - 19	標準原価計算：間接費差異分析	Ch 8 Flexible Budgets, Overhead Cost Variances, and Management Control
8 14/10/20 - 26	中間テスト	
9 14/10/27 - 11/2	第9章 棚卸資産原価計算と操業度分析	Ch 9 Inventory Costing and Capacity Analysis
10 14/11/3 - 9	意思決定と関連情報	Ch 11 Decision Making and Relevant Information
11 14/11/10 - 16	第4章 間接費配賦と部門別原価計算	Ch 15 Allocation of Support-Department Costs, Common Costs, and Reve
12 14/11/17 - 23	第8章 連産品と副産物の原価計算	Ch 16 Cost Allocation: Joint Products and Byproducts
13 14/11/24 - 30	第6章 総合（工程別）原価計算	Ch 17 Process Costing Ch 18 Spoilage, Rework, and Scrap
14 14/12/1 - 7	第7章 仕損、再作業品、作業廃物	Ch 18 Spoilage, Rework, and Scrap
15 14/12/8 - 14	戦略、バランススコアカード、戦略的利益分析	Ch 13 Strategy, Balanced Scorecard, and Strategic Profitability Analysis
16 14/12/15 - 21	期末テスト	

② 成均館大学校

2013年2学期

教科名	管理会計
単位	3
講義時間	月 09:00~10:15 10:30~11:45
担当教授	省 略
受講対象	経営学部及び他学部
授業目標及び概要	企業及び非営利組織を経営管理するのに必要な会計情報の創出およびその使用方法を学習する。テキストについての講義を通じて理論と概念を学習し、また課題実習を通じて適用能力を向上する。このクラスは基礎クラスであるが、会計原理程度の会計基礎知識がないと受講が不可能ではないが不利であるということ念頭に置いてほしい。
先修科目(学習)	会計原理
講座運営方式	会計原理を受講していない学生は、今学期、管理会計の代わりに会計原理を受講することをおすすめする。 #注意:毎週予習復習をする覚悟ができていない場合のみ受講を勧告する。 ※テストの際、不正行為が見つかった場合Fとする。 1. 出席 欠席が全体の1/4以上であればFを付与する。その以下の場合は時間あたり一定点数を総点から減点する。 2. 中間テスト及び期末テスト 中間テストと期末テストのいずれを欠席した場合Fとする。 3. 課題 課題は授業内容をもとにチーム制で遂行する。
成績評価方法	出席 10%、課題 30%、中間テスト 30%、期末テスト 30% 計100%
テキスト及び参考文献	管理会計 ベク・テヨン 2012
週	授業内容
1	管理会計は何か
2	原価概念
3	原価の変動性と原価推定 (1) 変動費、固定費、混合費 (2) 混合費の推定方法3つ等
4	変動原価計算 ¹⁴⁾ (1) 変動原価計算と貢献利益計算書 (2) 超変動原価計算
5	原価－操業度－利益分析 (1) 損益分岐点と貢献利益 (2) 目標利益 (3) レバレッジ効果 (4) 原価低減の利益増加効果
6	総合予算 (1) 営業予算と財務予算の具体的内容 (2) 予算の種類等

14)「直接原価計算」を韓国では「変動原価計算」という。

7	予算差異分析 (1) 直接材料費差異 (2) 直接労務費差異 (3) 変動製造間接費差異 (4) 固定製造間接費差異
8	中間テスト
9	期間間差異分析
10	意思決定と関連原価 (1) 製品価格 (2) 関連原価分析 (3) 製品ラインの維持または廃止 (4) 外部注文
11	戦略的原価管理 (1) 在庫関連原価分析 (2) 品質経営 (3) スピード経営の効果分析 (4) PLC原価計算等（製品ライフサイクル原価計算）等
12	不確実性と意思決定
13	成果評価 (1) 責任会計 (2) 投資性と評価指標 (3) 経済的付加価値 (4) BSC（均衡成果表）
14	社内振替価格
15	環境管理会計
16	期末テスト